

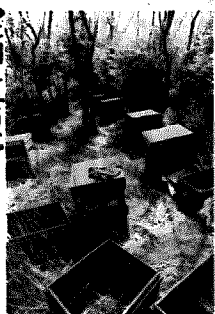
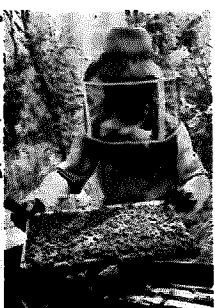


写真は6月10日(火)、新潟市の護国神社裏で撮影したものです。アカシア蜜の採取は5月下旬がピークで、この採取は今年最後のものだそうです。なお、新潟県で養蜂業者は4~5人しかいません。



山田さんに苦勞話などをうかがってみました

— 始められたのは昭和五年、曾野木村(現新潟市曾野木)で、農業の副業として蜜蜂一箱を飼育したのが始まりです。—
— どんな所で蜜を採取するのですか



「純粹アカシア蜜」

新潟県推奨優良品に認定

本町寺地下、山田養蜂場(山田勝二さん経営)〇二五二一六六一六二七三)の純粹アカシア蜜が新潟県推奨優良品に認定されました。このアカシア蜜は蜜蜂が採取したままの食品で、添加物が入っていない自然食品です。栄養価も高く、アルカリ性食品であるため健康には最適だそうです。

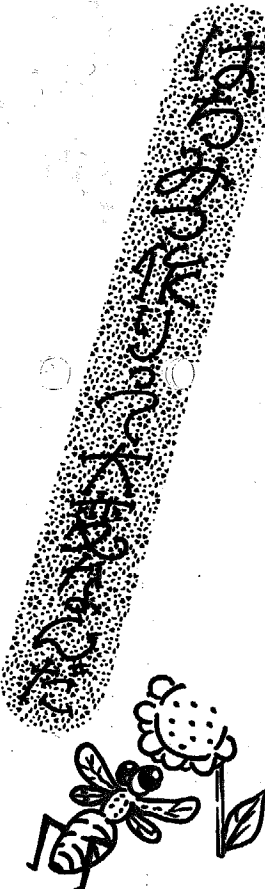
現在、アカシアの花が中心です。新潟の浜はもろろん網代浜や次第浜などでアカシア蜜を採取しています。昔はきれいな空気、きれいな緑、きれいな花を求めて北は北海道、南は鹿児島まで、足を伸ばしたものです。最近はその簡単に蜂を飛ばせませんし、開発も進んだため場所も制限されています。

「天候に左右されるので、そうなんです。アカシアの花が咲くのは五月の下旬から六月の下旬にかけてですから、およそ十日間が勝負です。この間強風が吹いて花が散ったり、雨が降ってしまおうとおしまいです。ただ蜂にお祈りするだけです。」

— 蜜の採取方法は、蜂が運んで来た蜜は、蜂の巣のような網目の中に溜ります。これを現地で遠心分離器にかけ液を採取し、工場でカスなどを取り除き自然のままの蜂蜜ができるわけです。

山田さんは昭和二十八年新潟市曾野木から寺地へ入居。当時は細々と営んでいた養蜂業も、今では百二十箱にも増え、九年前会社を退職しこの道へ。

「この仕事はバケツのようなもので、生きものを飼うことは大変で、寒い冬は蜂が全滅することもあり、風雨で花が散ってしまえば、収入の途も断たれ、危険な商売です。でも、おたくの蜂蜜は他の物よりおいしいとか、スーパリーの物より品質が良いと言われた時は、何とも言えない喜びを感じます」と語っておられました。



トピックス 7

立仏小で 自転車乗り教室



六月十九日(土)、新潟県生活環境部交通安全対策課の主催で、立仏小学校児童のお母さんたちを対象に、正しい自転車の乗り方教室が開かれました。

最近、自転車事故が多発していることからこの日指導に訪れた柄沢副参事は、「事故に遭わないため、最低限、右折、左折、止まるの合図は励行してほしい」と力説。

さっそく体育館内で実技講習。「右へ曲る時はこうだったかしら」と不安気にも、一生懸命挑戦していました。



▼金巻老人クラブ 遊園地の草取り奉仕

金巻老人クラブが、金巻の遊園地をきれいにし、草取りの奉仕活動を行い、地域の人から喜ばれています。

6月18日、早朝、ゲートボールで一流した後の、さんさんと照りつける炎天下で、それぞれ「カマ」を手に「孫たちが少しでもきれいな所で遊べるし、もう一つは私共の運動にもなるし一石二鳥ですわ」と奉仕の手を休めず、黙々と作業を続けていました。



「スポーツ団体もたいへんなんです……。」

六月十五日(火)、総合体育館で黒埼町各種団体リーダー研修会が開かれました。当日は各スポーツ団体などから代表約二十名が集まり、自分たちの団体の構成人員、運営機構、練習方法、町外大会参加の成果などについて発表しました。

また、今までの問題点や今後の対策についても多くの意見が出され、講師の田村功さんから助言を受けました。

黒埼町には多くのスポーツ団体がありますが、互いにより連絡を持たず、このような機会に交流が持たれることは大切なことです。



▲雨にも負けず……町民ロードレース

6月27日(日)。第1回黒埼町民ロードレース大会はあいにくの雨。雨、雨、雨。開催も危ぶまれました。しかし、16名の参加者は定刻より少し遅れてスタート。体育館→木場→金巻→体育館(男子は2周で6キロ、女子3キロ)のコースを全員が完走しました。入賞は次のとおりです。一般-1位阿部長一(21'7") 2位吉井吉一(21'46") 3位阿部長二(21'54") 中学生の部-1位加藤芳浩(21'58") 2位萩野一明(24'50") 3位藤石明(25'50") 女子-1位阿部秋子(14'19")

「みつばちは煙に弱い! 煙はみつばちをおどかさず

